

## 1 実践の目標

安全安心な作物や商品の開発や提供を通して、身近な消費者問題に関心を持ち、生産・流通・消費・廃棄が環境や経済、社会に与える影響を理解するとともに、安全で危険の少ない消費社会を目指すことの大切さについて広く啓発する。

## 2 実践の概要

### (1) スクールカフェ吉野川の開催

本校では商業科と農業科が設置されており、農業科が作った作物を活用して商業科がスイーツを作り、毎週木曜日の放課後に「スクールカフェ吉野川」を開催している。

また、四国大学と連携し、地元食材を用いた夏野菜のピザ、枝豆タルト等を開発し、カフェの新メニューとするなど、地元の食材の良さや食の安全安心をアピールした。

### (2) 出張スクールカフェ吉野川の開催

阿波市政10周年記念イベントである阿波市フェスタに参加し、阿波市産の小麦や柿を用いたマフィンを提供し、地元食材の良さをアピールするとともに地域を見直すきっかけ作りに取り組んだ。

また、徳島市で開催されたジャズフェスティバルにも参加し阿波尾鶏や鳴門レンコン等を用いた「すだちくん弁当」を提供し徳島県のブランド食材のPRに努めた。

### (3) 食品購入に関するアンケートに基づく取組

#### ①食品表示の工夫

食品表示に関する意見・要望では、「分かりやすくして欲しい」等の回答を得たことから、カフェで提供する商品について食品表示をカラフルにし大きくして掲示した。スクールカフェのお客様からは見やすく分かりやすいと好評を得るとともに食品表示を意識するようになったとの声も聞かれた。

#### ②ロゴの作成

地元産の食材を用いた商品については、安全安心であり購入したいとの回答が多く、スクールカフェで提供する商品は地元食材を使用していることやスクールカフェをアピールするためにスクールカフェのロゴを作成した。ロゴの作成については、食ビジネス科の生徒からロゴの案を募集し、その中から生徒が選考した。

### (4) リーフレット「消費者トラブルを防ぐために」の配付

スクールカフェのお客様に配付し、クーリングオフ制度の周知を行った。生徒は分かりやすいように自ら考えて内容を説明しコミュニケーション能力の向上等も図ることができた。



## 3 実践の成果

アンケートの結果から食品購入について、量やメーカー名を重視する傾向があることが分かり、自分たちの食生活や消費生活を見直すきっかけとなり、特に自分たちが何を食べているのか、どのように作られているのか、について関心が高まった。

また、食品表示検定があることを知り、食品表示は食品について様々な情報を消費者に伝えているが、大変複雑で理解できておらず、食の安全安心には自ら取り組んでいく必要があると理解を深めた。

さらに、ロゴの作成と、これまでのスクールカフェの取組の幅を広げたことにより、生徒は自ら工夫し考え行動する力が高まり今回の成果に繋がった。

今後も校外のイベントに参加する等、体験を通して消費者教育を推進するとともに生徒の生きる力の育成を図りたい。